

第一日曜日
教会学校 9:00～
主日第一礼拝 9:00～
主日第二礼拝 10:30～
その他の日曜日
教会学校 9:00～
聖書を読む会 9:00～
主日礼拝 10:30～

日本基督教団 麻布南部坂教会月報

2019 (平成31年) 5. 12

牧師 松谷 祐二

〒106-0047 東京都港区南麻布4-5-6 Tel & Fax 03 (3473) 1276
E-mail church@nanbuzaka.com <http://www.nanbuzaka.com/>

印刷 有限会社 創文社 Tel (3491) 8321

祈禱会
第2日曜日 礼拝後
成人会
第3日曜日 礼拝後
婦人会
第4日曜日 礼拝後
教会附属 南部坂幼稚園

「独り子をささげる」

牧師 松谷 祐二

創世記 第二章一～一九節

これらのことの後で、神はアブラハムを試された。神が、「アブラハムよ」と呼びかけ、彼が「はい」と答えると、神は命じられた。「あなたの息子、あなたの愛する独り子イサクを連れて、モリヤの地に行きなさい。わたしが命じる山の一つに登り、彼を焼き尽くす献げ物としてささげなさい。」次の朝早く、アブラハムはろばに鞍を置き、献げ物に用いる薪を割り、二人の若者と息子イサクを連れ、神の命じられた所に向かって行った。三日目になって、アブラハムが目を見えなくなり、遠くにある場所が見えたので、アブラハムは若者に言った。「お前たちは、ろばと一緒にここで待っていてなさい。わたしと息子はあそこへ行つて、礼拝をして、また戻ってくる。」アブラハムは、焼き尽くす献げ物に用いる薪を取って、息子イサクに背負わせ、自分は火と刃物を手に持った。二人は一緒に歩いて行った。イサクは父アブラハムに、「わたしのお父さん」と呼びかけた。彼が、「ここにいる。わたしの子よ」と答えると、イサクは言った。「火と薪はここにありますが、焼き尽くす献げ物にする小羊はどこにいますか。」アブラハムは答えた。「わたしの子よ、焼き尽くす献げ物の小羊はきつと神が備えてくださる。」二人は一緒に歩いて行った。神が命じられた場所に着くと、アブラハムはそこに祭壇を築き、薪を並べ、息子イサクを縛って祭壇の薪の上に載せた。そしてアブラハムは、手を伸ばして刃物を取り、息子を屠ろうとした。そのとき、天から主の御使いが、「アブラハム、アブラハム」と呼びかけた。彼が、「はい」と答えると、御使いは言った。「その子に手を下すな。何もしてはならない。あなたが神を畏れる者であることが、今、分かったからだ。あなたは、自分の独り子である息子すら、わたしにささげることを惜しまなかった。」アブラハムは目を凝らして見回した。すると、後ろの木の茂みに一匹の雄羊が角をとられていた。アブラハムは行ってそ

の雄羊を捕まえ、息子の代わりに焼き尽くす献げ物としてささげた。アブラハムはその場所をヤーウェ・イルエ（主は備えてくださる）と名付けた。そこで、人々は今日でも「主の山に、備えあり（イエラエ）」と言っている。主の御使いは、再び天からアブラハムに呼びかけた。御使いは言った。「わたしは自らにかけて誓う、と主は言われる。あなたがこの事を行い、自分の独り子である息子すら惜しまなかったの、あなたを豊かに祝福し、あなたの子孫を天の星のように、海辺の砂のように増やそう。あなたの子孫は敵の城門を勝ち取る。地上の諸国民はすべて、あなたの子孫によって祝福を得る。あなたがわたしの声に聞き従ったからである。」アブラハムは若者のいるところへ戻り、共にベエル・シェバへ向かった。アブラハムはベエル・シェバに住んだ。（新共同訳聖書）

神に背き、神の祝福を祝福とも思わない人間、そのせいで歪んでしまった世界を回復し、救うために、神は思い切った計画をお立てになりました。本来は全世界に与えたいと願っている神の祝福を、当面、敢えて一人の人、アブラハムに集中させる計画です。神の言葉に聞き従って生きる人の幸いを示す生きた見本、「祝福の源」となすためでした。神は、アブラハムに与える「祝福」の見える形として、「土地」と「子孫」を与えることを約束されました。しかし、どちらも一度に「はい、どうぞ」と与えられたものではありません。「土地」についての神の約束は、そのお言葉通りになるまで、何世代も交代し、何百年もかかるものでした。「子孫」については、アブラハムが神の言葉に従って旅立ってから、二十五年後にやっと一人の男子が妻サラとの間に与えられました。それが独り子イサクです。アブラハムは特に忍耐強い、立派な心の持ち主だったわけではありません。誰にでもある弱さや身勝手さが、彼にもありました。ただ神が、彼に手取り足取り、噛んで含めるように教えられたのです。一生をかけ、また自分の死後、はるか後の時代を見据えるようにしてまでも、神の約束の成

就を待ち望むこと、神の言葉を信じることを。このアブラハムに、最終試験とも言うべき難題を神が課されたのが、上述の聖書の場面です。独り子イサクを、山の上で焼き尽くす献げ物として神にささげるように、神は命じられました。長年待ち続けてやっと授かり、成長しつつあるイサクを、殺していけにえにせよ、とは…。

何と、アブラハムは黙って神の言葉に従おうとしていました。二人での道中、息子の呼びかけに「ここにいる。わたしの子よ」と、問いかけに「わたしの子よ、焼き尽くす献げ物の小羊はきつと神が備えてくださる」と答える以外、何も言いません。イサクも、すでに幼い子どもではなかったのに、雰囲気から何か察せられたでしょうし、縛られて祭壇に乗せられるのを拒んで逃げることもできたはずですが、それもありませんでした。

親子ともに、苦渋に満ちた表情を浮かべていたかもしれません。しかし、親子ともに、「わたしの子よ、焼き尽くす献げ物の小羊はきつと神が備えてくださる」——どのようにしてかは分かりませんが、「神が備えてくださる」。この思い一つだけで、神の言葉に従おうとしていました。

アブラハムは、独り子をささげることを惜しまないほどに、神を畏れ、神の真実さを信じたのです。神はそれを認め、やがて世界中の人々に広げられるはずの神の祝福の担い手として、彼とその子孫を再度確認されました。本当に息子を手にかけることは、すんでのところで禁じられます。それは神の御心ではなく、あくまで試験だったからです。献げ物は、「神が備えてくださる」とアブラハム親子が信じた通りになりました。

アブラハムと息子イサクは、知る由もないことですが、実は、神ご自身と御子イエス・キリストの苦悩と決意を擬似体験していたのです。どうしても独り子を犠牲にしなければならぬのでしょうか。そんな理不尽なことがあるのでしょうか。しかし、アブラハムは本当には経験せずに済んだところの、この独り子を喪う苦しみを、神ご自身は、自ら味わおうとしておられました。人の罪を贖う神の独り子の死が、わたしたちの救いのためにはどうしても必要だったからです。

二〇一八年度会計報告

六 戸 信次郎

四月二十八日主日礼拝後、二〇一九年度定期教会総会が開催され、全ての議事が承認・可決され、滞りなく総会が終了しました。会計役員として、決算・予算についてご報告させていただきます。

昨年度の教会会計は、数年ぶりに四十三万円余りの赤字決算となりました。不足分を予備費特別会計より取り崩すこととなり、予備費の残りは二百七十万円余りとなりました。

二〇一八年度の赤字決算の要因は、教会員の高齢化や減少等による、月定献金・特別献金等の収入が前年度を六十万円近く下回ったことが大きな原因と考えられます。今後も、今年同様な決算が続くならば、教会会計の将来に不安が生じます。何としてもこの流れを変えたいと、役員会で話し合われました。財政を立て直すにはまず、経費を削減することですが、毎年知恵を絞って経費削減に取り組んでいることもあり、削減効果は思う程には上がらないのが現状です。どうしても、月定献金や特別献金の収入を増やすことが必要となります。

現在、教会員の皆さんには、月定献金や通常の記念日献金や感謝献金等の特別献金の他に、会堂建築献金、オルガン献金や神学生を支える献金、東神大後援会献金、隠退教師を支える献金など、さまざまな献金をお願いしています。熊本・大分地震被災教会支援献金は終了したとはいえ、お一人お一人の負担額は以前より増えているのではないかと推察します。そんな中、更なる献金の増額をお願いするのは、大変心苦し

いです。そこで、オルガン献金をいったん中断し、皆さんのご負担を少しでも軽くさせて頂くことを役員会で考えました。

現在のオルガンがいつまで使えるか不明ですが、その時には現在まで積み立てたオルガン献金を基に、皆で知恵を出し合うことにしましょう。今は何より、教会財政を立て直すことを優先しなければならぬと考えます。

今年度の予算は、赤字決算にならないように、対外献金を半減させるという計画を立てざるを得ませんでした。決して多くない対外献金をさらに削ることは、支援を必要としている沢山の教会や団体があることを知っている教会としてはつらい決断です。一日も早く財政を立て直して、対外献金を元に戻したいと願っています。その為には、クリスマス献金やイースター献金を目標額にできるだけ近づけることです。残念なことにはここ何年、目標額を上回ったことがないのが現実です。今年度のイースターは既に終えましたが、イースター献金額は昨年をわずかに上回りました。クリスマスに向けて、皆様に教会の現状をお伝えしていきたいと考えています。

一方、明るい材料もあります。松谷先生が赴任されて以来、教会員の皆様に積極的にお願いをしてきた、会堂建築特別会計は、昨年、トイレの修繕を行ったうえで、まだ六百万円を上回る積立が残っています。これは教会の大きな財産です。何か突然、大規模な修復工事が必要になっても、対応できることでしょう。また、僅かではありませんが、神学生に奨学金をお渡しして、伝道の働きに備えた学びの時を、教会としてお支え続けています。

私達、プロテスタント教会は、教会員お一人お一人から捧げられる献金に依って、

教会のすべての費用を賄っていかなければなりません。その為に、毎月の決算を公開し、ご理解とご協力をお願いしています。

現在のわが国で、キリスト教の教会を守り続けていくことは、容易なことではないかもしれません。麻布南部坂の地に、伝道の皆として私たちの教会が百年の間、存在し続けた事実には、重みがあります。全ては神さまの御計画のもとに進んでいくことを信じ、私達、それぞれが与えられた賜物に従って、働いていきたいと願い、御心が行われますよう、祈り続けたいと思います。

報 告

* 南部坂幼稚園では、四月九日(火)に進級式、十日(水)に入園式が行われ、新年度が始まりました。

* 阿部百合姉が、日本基督教団国立教会から当教会に転入されました。よろしくお願います。

* 四月二十一日(日)復活日礼拝後、多磨霊園内 教会墓地において復活日墓前礼拝を守りました。

* 四月二十八日(日)、定期教会総会が開かれ、全ての議案が承認・可決されました。また、次の方々が新年度の役員に選出されました。大司宣子、北川恵、六戸信次郎、六戸健太、高橋優美子(敬称略)。役員の方々のためにお祈りください。

《各部報告 四月度》

成人会

日時 三月三十一日 主日礼拝後三時迄
場所 教会堂会議室

出席者 五名
開会祈禱 下奥敏子姉
内容

ゼカリヤ書の後半九章〜十四章を学んだ。神様の教えを私たち人間は、すぐ忘れてしまつて、間違つた方へ行つてしまつたので、その度に「罰」を与えて、その間違いに築くようにして下さる。それなのに、私たちは何度も、何度も、同じ間違いを繰り返しても、なお安易な邪悪の方へ、知らず知らずに、惹かれていつてしまうのです。人間は愚かだから。

神様から、次々と厳しい試練をその度に与えられる、そして正しい道へと導いて救い上げてくださる。「試練」の後は、必ず「救いの恵み」を与えてくださる。長い長い「バビロン捕囚」も、四十年間も救いが与えられなかった「エジプトからの脱出」も、神さまから、ようやく「赦し」が出て、自分の国へ返して下さったのです。エルサレムに戻つて来れたのです。おろかな人間は、そのことを忘れて、又、神さまの怒りを買つてしまつた。この繰り返しですが、聖書に刻まれているのです。おろかな私たちの為に、預言者を通して語られているのが聖書です。私達は、この聖書を、牧師の導きの助けを借りて、私達が行く道の先に、光を照らしてください。

次回四月は休会、五月十九日 旧約の最後マラキ書です。引き続き、下奥姉が担当します。黙禱をもって閉会。十二年ぶりに司会をしました。感謝。

婦人会

休会